

茶の春整枝時期の調整による一番茶の適期拡大

【研究のポイント】

県内の茶産地では、茶を高品質な時期に出来るだけ多く摘採する（お茶を摘み取る）ことが望まれています。しかし、大規模経営体においては、全ての茶園を適期に摘採することができず、品質低下を招くことが問題となっていました。そこで、春整枝の時期を調整して適期を拡大する技術の開発に取り組みました。

【研究の成果】

①一番茶の摘採期間延長の効果について

晩生品種「おくみどり」の春整枝の時期を慣行（3月上・中旬）よりも遅くすることで、芽の生育がスタートするタイミング（＝萌芽日）が遅くなり、その後の摘採時期も遅らせることが可能になりました。なお、整枝の時期による収量の違いは確認されませんでした。

②二番茶に与える影響について

一番茶の摘採を遅らせた場合、二番茶についても摘採適期が遅くなることが確認されました。また春整枝の時期が遅くなるにつれて、二番茶の芽が小さくなる傾向が確認されました。このことは、二番茶の収量を確保するためには、春整枝の時期に留意する必要があることを示しています。

表 晩生品種「おくみどり」の整枝時期、整枝位置が及ぼす影響（2021）

試験区	萌芽日	一番茶摘採日	二番茶摘採日	二番茶生葉収量 (kg/10a)	二番茶百芽重 (g)	二番茶摘芽長 (cm)
秋整枝 10/27	4/9	5/14	6/30	1014.1	75.6	7.5
春整枝 3/17	4/14	5/18	7/2	944.6	66.0	6.7
春整枝 3/26	4/19	5/19	7/5	692.0	58.2	5.7
春整枝 4/5	4/25	5/25	7/8	751.8	55.3	5.8
春整枝 4/5-3cm	5/3	5/31	7/12	540.1	37.5	4.3

例えば、2021年は3月26日に春整枝を行うと、秋整枝に対して萌芽日は10日遅くなり、一番茶の摘採適期は5日遅くなりました。その後二番茶では摘採適期は5日遅くなりました。年較差はあるものの、2020年も同様の結果となりました。

【生産者の声】



大規模な経営では、適期を分散させる技術はとても重要で、弊社では品種構成などに気を配っています。今回の研究結果は、二番茶収量を考慮して整枝の時期を決めるヒントにしたいと思います。

また、春先の晩霜害の対策としても、この技術を応用できると考えています。

有限会社 豊後大分有機茶生産組合
代表 後藤 源宗 氏（臼杵市）

【連絡先】

担当：農業研究部 葉根菜類・茶業チーム
TEL：0974-28-2082
住所：大分県豊後大野市三重町赤嶺2328-8